

- 1日 ○財務省、2015年4-6月期の法人企業統計調査を発表
売上高は前年比+1.1%で2期ぶりの増加、経常利益は同+23.8%で14期連続の増加、設備投資は同+5.6%で9期連続の増加
- 自販連、8月の軽自動車を含む国内新車販売台数を発表
32万7,049台で前年比△1.9%と8か月連続のマイナス
- 米供給管理協会、8月のISM景況指数（製造業）を発表
総合指数は51.1ポイント（前月52.7ポイント）となり、製造業活動の拡大・縮小の分岐点である50ポイントを32か月連続で上回ったものの2か月連続の鈍化
- 中国国家统计局、8月の製造業PMI（購買部担当者指数）を発表
総合指数は49.7ポイント（前月50.0ポイント）と前月から0.3ポイント低下、6か月ぶりに製造業活動の拡大・縮小の分岐点である50ポイントを下回った
- 3日 ○欧州中央銀行（ECB）、政策理事会を開催し、以下を決定
・1月に決定した、国債買入れを含む量的緩和策を実施・継続する方針を維持
・政策金利の据え置き（0.05%）
・預金ファシリティ金利を△0.20%に、貸出ファシリティ金利を0.30%に据置き
・量的緩和策の拡大・延長を示唆
- 4日 ○厚生労働省、7月の毎月勤労統計（速報）を発表
現金給与総額は前年比+0.6%で2か月ぶりの増加（うち所定内給与は同+0.6%、うち所定外給与は同+0.6%、うち特別給与は同+0.3%）
- 米労働省、8月の雇用統計を発表
非農業部門の雇用者数は前月比17.3万人増、失業率は5.1%と前月（5.3%）から低下
- 7日 ○内閣府、7月の景気動向指数（速報）を発表
先行指数104.9（前月差△1.6ポイント）で5か月ぶりの低下、一致指数112.2（前月差△0.1ポイント）で2か月ぶりの低下、遅行指数115.7（前月差+0.1ポイント）で2か月連続の上昇
- 8日 ○内閣府、2015年4-6月期のGDP（2次速報）を発表
実質GDP成長率は季調済前期比△0.3%（年率換算△1.2%）、名目GDP成長率は同+0.1%、GDPデフレ率は前年比+1.5%
- 財務省、7月の国際収支状況（速報）を発表
経常収支は18,086億円の黒字となり、13か月連続の黒字
- 東京商工リサーチ、8月の全国企業倒産状況を発表
倒産件数は632件（前年比△13.0%）で5か月連続のマイナス、負債総額は979億円（同△27.8%）で4か月連続のマイナス、倒産企業の従業員数は2,898人（同△38.4%）で2か月連続のマイナス、上場企業倒産は0件
- 内閣府、8月の景気ウォッチャー調査を発表
- 景気の現状判断DIは前月差△2.3ポイントの49.3と2か月ぶりに低下、先行き判断DIは前月差△3.7ポイントの48.2と3か月連続の低下
- 中国海関総署、8月の貿易収支を発表
貿易収支は602億ドルと18か月連続の黒字、輸出は1,969億ドルで前年比△5.5%、輸入は1,366億ドルで前年比△13.8%
- EU統計局、ユーロ圏の2015年4-6月期GDP（2次速報）を発表
実質GDP成長率は季調済前期比+0.4%、9四半期連続のプラス成長、1次速報（同+0.3%）から上方修正
- 9日 ○日本銀行、8月のマネーストック（速報）を発表
M2は前年比+4.2%、M3は同+3.4%、広義流動性は同+4.7%
- 10日 ○内閣府、7月の機械受注統計を発表
民需（除く船舶・電力）は季調済前月比△3.6%と2か月連続の減少、基調判断は「持ち直しの動きに足踏みがみられる」とし6月の「持ち直している」から下方修正
- 日本銀行、8月の企業物価指数（速報）を発表
前年比△3.6%となり、5か月連続のマイナス
- イングランド銀行（BOE）、金融政策委員会を開催し、以下を決定
・政策金利は0.50%に据置き
・資産買入れプログラムの規模を3,750億ポンドに据置き
- 中国国家统计局、8月の消費者物価上昇率を発表
総合指数は前年比+2.0%、前月（+1.6%）から拡大
- 11日 ○財務省・内閣府、2015年7-9月期の法人企業景気予測調査を発表
景気判断BSI（大企業・全産業）の現状判断は+9.6%ポイント、2015年10-12月期見通しは+7.7%ポイント、2015年度（平成27年度）設備投資（全規模・全産業）は+6.1%の見通し
- 平成27年第15回経済財政諮問会議を開催
「好循環拡大・深化」「経済・財政一体改革の具体化」「子育て支援・少子化等」について議論
- 15日 ○日本銀行、金融政策決定会合を開催、以下の事項を決定（14日～）
・金融市場調節方針：現状維持
「マネタリーベースが、年間約80兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行う。」
- 米商務省、8月の小売売上高を発表
総合は季調済前月比+0.2%、変動の大きい自動車を除くペースでは同+0.1%
- 米FRB、8月の鉱工業生産を発表
生産は季調済前月比△0.4%で2か月ぶりのマイナス
- 16日 ○日本銀行、金融経済月報（9月）を発表
景気の現状について、「わが国の景気は、輸出・生産面に新興国経済の減速の影響がみられるものの、緩やかな回復が続いている。」と判断
- 米労働省、8月の消費者物価指数を発表

日誌

(9 月 中)

- 総合指数は前月比 $\Delta 0.1\%$ 、前年比 $+0.2\%$ 、食品とエネルギーを除いたコア指数は前月比 $+0.1\%$ 、前年比 $+1.8\%$
- 17日 ○財務省、8月の貿易統計(速報)を発表
輸出額は自動車、船舶等が増加し前年比 $+3.1\%$ 、輸入額は原油、液化天然ガス等が減少し同 $\Delta 3.1\%$ 、貿易収支は $\Delta 5,697$ 億円で5か月連続の赤字
- 日本銀行、6月末の資金循環統計(速報)を発表
家計の金融資産残高は前年比 $+4.4\%$ の1,717兆645億円となり19四半期連続のプラス
- FRB(米連邦準備制度理事会)、FOMC(米連邦公開市場委員会)を開催(16日～)
・政策金利、償還債券の再投資については現状維持
・今後の利上げペースの予測を下方修正
・利上げ時期の判断に関する文言(フォワードガイダンス)は踏襲
- 米商務省、8月の住宅着工件数を発表
季調済前月比 $\Delta 3.0\%$ の年率112.6万件
- 21日 ○米商務省、8月末の中古住宅販売件数を発表
季調済前月比 $\Delta 4.8\%$ の年率531万件
- 24日 ○米商務省、8月の新築住宅販売件数を発表
前月比 $+5.7\%$ の年率55.2万件
- 米商務省、8月の耐久財受注を発表
新規受注は前月比 $\Delta 2.0\%$ 、設備投資計画の先行指数とされるコア(航空機を除く)非国防資本財受注は前月比 $\Delta 0.2\%$
- 25日 ○政府、9月の月例経済報告で景気の基調判断を「景気は、このところ一部に鈍い動きもみられるが、緩やかな回復基調が続いている」とし、一部表現変更を加えつつも据置き
- 総務省、8月の消費者物価指数を発表
生鮮除く総合は前年比 $\Delta 0.1\%$ と28か月ぶりのマイナス
- 米商務省、2015年4-6月期のGDP(確報)を発表
実質GDP成長率は前期比年率 $+3.9\%$ と2次速報値(同 $+3.7\%$)から上方修正
- 30日 ○経済産業省、8月の鉱工業指数(速報)を発表
生産は季調済前月比 $\Delta 0.5\%$ 、出荷は同 $\Delta 0.5\%$ 、在庫は同 0.4%
基調判断は「生産は弱含んでいる」(下方修正)
- 経済産業省、8月の商業動態統計を発表
小売業販売額は前年比 $+0.8\%$ で5か月連続の増加、季調済前月比 $+0.0\%$ で前月から横ばい
- 国土交通省、8月の建築着工統計を発表
住宅着工総戸数は、80,255戸(前年比 $+8.8\%$)と6か月連続のプラス、季調済年率93.1万戸(前月比 $+1.8\%$)と2か月ぶりのプラス
- 東証株価指数(TOPIX)第1部(終値)
- | | |
|-------|---------------|
| 月間最高値 | 1,507.37(9日) |
| 〃 最安値 | 1,375.52(29日) |
- 日経平均株価(終値)
- | | |
|-------|-----------------|
| 月間最高値 | 18,770.51円(9日) |
| 〃 最安値 | 16,930.84円(29日) |
- 東京外為市場(円相場、銀行間直物、対1ドル)
- | | |
|-------|--------------|
| 月間最高値 | 119.23円(4日) |
| 〃 最安値 | 120.94円(17日) |